



広げよ 可能性の地図、
定めよ 羅針盤



真摯 勤勉 質実

山口県立小野田高等学校

校長通信（発行不定期）

平成30年5月21日 **第2号**

橋本左内 15歳の「啓発録」

今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」、おもしろいですね。明治維新最大の「英雄」と言われる薩摩の西郷隆盛の生涯を描いた作品ですが、大久保利通・島津斉彬・篤姫等個性豊かな人物が次々に登場してきます。

その幕末維新时期に、越前（福井）藩から登場してきた志士が、**橋本左内**（1834～1859）でした。彼は、西郷らとともに、国難打開のために国事に奔走しましたが、若干25歳で、幕府大老井伊直弼が断行した安政の大獄により斬首、非業の最期を遂げました。



橋本 左内

福井市立郷土歴史博物館蔵

さて、私がここで、君たちに伝えたいのは、幕末の日本史でもなければ、橋本左内の生涯でもありません。左内が、15歳の時に、自らの今後の生きる指針として書き記した「**啓発録**」について紹介したいのです。それには、次の5ヶ条が述べてあります。

その第一条が、**稚心を去る**…稚心とは幼稚な心のこと。この心がある限り、何事も大成しない。大人に頼りきり、依存するような子供っぽさは捨てる。

第二条 **振気**…他人に負けまいという気持ち、恥辱を残念に思う心を奮い立たせることが大切である。

第三条 **立志**…志とは生き方の決意を固めること。志のない人間は絶対に成長しない。大きく堅固な志をもつことが、肝要である。

第四条 **勉学**…勉学に励むこと。学ぶとは習うことであり、自分よりも優れた人の善行を模倣し、自らもその人のようになることが学の始まりである。

第五条 **交友を選ぶ**…平素接している友人のなかで、自らを成長させてくれる友（益友）を選ぶことが大切である。

わずか15歳の少年が記した「啓発録」。左内と同年齢もしくは年長となった君たちは、この「啓発録」を読んでどう思いますか。現在の自分の考え方・生き方と比べて、考えてみてください。

県高校総体・県高校総文 頑張れ！選手諸君！！

中間考査も終わり、また、校舎内外で、運動部・文化部で活動する生徒たちの声が、響きはじめました。

選手諸君。いよいよ、**高校総体・高校総文**ですね。

教諭の頃、私は、弓道部の顧問でした。年間を通じて、各種様々な試合がありましたが、一番の思い出の大会を挙げるとすると、やはりこの県高校総体の試合であったように思います。それというのも、3年生にとっては、これが部活動最後の試合となる大会だからです。この試合でもって、3年生は部活動を引退します。そのため、3年生は本当に必死でした。とにかく試合に出たい。チームに貢献したい。そういう熱い思いが、ひしひしと伝

わってきました。今、3年生の選手諸君も、私のかつての教え子たちと同じ思いで、練習に励んでいると思います。

もちろん、試合である以上、君たちが勝敗にこだわるのは当然です。各部、それぞれ、目標があるでしょう。優勝して全国大会を目指す部、ベスト8・ベスト16をねらう部、悲願の1勝をあげたい部…どの部も、是非、目標の実現を目指してほしい、と思います。

しかし、私は、試合の勝敗もさることながら、君たちには、この大会では、なによりも**おのれが持てるすべてをだしきってほしい**、と願っています。たとえ負けても「精一杯やった。悔いはない。」そう思える試合をしてほしいのです。それゆえ、月並みではありますが、選手諸君に、**「頑張れ！」**という次のメッセージを送ります。

まず、選手諸君は、**自分のために**頑張ってください。ことに引退試合となる3年生。3年間で振り返ってみてください。うだるような猛暑の夏、寒風吹きすさぶ冬の練習は、本当に辛かったですね。でもそれ以上に苦しかったのは、いくら練習してもうまにならない時。自分のミスでチームに迷惑をかけてしまった時。もう部活なんてやめてしまいたい、そういう時もあったのではないのでしょうか。でも、最後まで頑張ったから、諦めなかったから、現在がある。この大会に出場できる。ですから、まず最後まで頑張り抜いた自分自身のために、ベストを尽くしてほしい、自分に恥ずかしくない試合をしてほしい、と思います。

次に、**仲間のために**です。部活動は一人で行うものではありません。仲間と一緒にです。思い出してみてください。辛かった時、苦しかった時、助けてくれたのは、仲間ではなかったですか。「次はがんばれよ」って声をかけてくれたのは、やはり仲間だったのでは…だから、そのかけがえのない仲間のためにも頑張ってください、と思います。

そして最後は、**学校のために**です。君たちは、個人で大会に出場するわけではありません。母校「小野田高校」という看板を背負って、出場するのです。ちなみに、その看板は、先輩から後輩へと代々受け継がれてきた歴史と伝統に輝くもの。だから、その学校のためにも、最善の試合をしてきてほしい。

以上、自分のために、仲間のために、そして学校のために、精一杯闘ってきてください。引退試合となる部の3年生諸君。試合終了後、思わずこみあげてくる涙は、最高の涙（この涙は本当に美しい）になると思いますよ。



